新約聖書
以弗所
腓立比書

02-SHI
10
海老澤文庫

02-SHI

耶穌降生一千八百七十九年　翻譯委員社中

米國聖書會社

新約聖書　以弗所書　腓立比書

明治十二年

日本横濱上梓

神原家図書記

海老澤有道文庫

使徒パウロエペソ人におくれる書

第一章　神の旨によりて耶穌キリストの使徒となれるパウロエペソにある聖徒およびいえすキリストにありて信ずるものにふみをおくる　二　ねがはくはわれらのちちなる神およびいえすキリストより恩寵と平康をうけよ○三　神すなはちわれらの主いえすキリストの父はほむべきかな。かれキリストにて[illegible]すべての霊のめぐみをもて天のところにてわれらをめぐみたまふ　四　それ神われらをしてそのまへにきよく疵なからしめんために創生のさきよりわれらをキリストのうちにえらび　五　そのこころのままに耶穌

キリストによりてわれらをおのれの子(こ)となさんことを愛(あい)をもてあらかじめ定(さだ)めたり 六 そのめぐみの榮(さかえ)をほめられんためなり。すなはちあいせるものにあるわれらにたまふところの恩(めぐみ)なり 七 そのめぐみのゆたかなるによりて彼(かれ)にあるわれらその血(ち)により贖(あがなひ)すなはち罪(つみ)のゆるしをうるなり 八 神(かみ)さかんに智慧(ちゑ)と聰明(さとき)をもてそこのめぐみをわれらに充(みた)しめ 九 われらにそのむねの奥儀(おくぎ)をこゝろのまゝにしめせり 十 これみづからさだめたまひしところなり。すなはち期(き)のみつるときにいたりてあるひは天(てん)にあるものあるひは地(ち)にあるよろづのものをキリストに歸(き)せしめんがためにさだめたまひしところなり 十一 すべてのことをその意(こゝろ)のまゝにおこなふものおのれのむねにしたがひて預(あらかじめ)われらをさだめキリストにありて嗣(よつぎ)となることをえせしむ 十二 これ前(さき)にキリストをたのめるわれらをしてかれのさかえの讃美(ほめ)らるゝことをなさしめんためなり 十三 なんぢらも眞(まこと)のことばすなはちなんぢらをすくふ福音(ふくいん)をきゝしのちキリストを信(しん)じわれらが業(げふ)をつぐの質(しち)なるやくそくの聖靈(せいれい)をもて印(いん)せらる 十四 神(かみ)せいれいをもていんしるしはその買(か)うけしものをすくひうつおのれの榮(さかえ)をあらはさんためなり 十五 このゆゑに我(われ)もなんぢらが主(しゆ)いえすをしんずることをきゝ

そのせいとを愛（あい）することをきゝて　十六　なんぢらのために感（かん）謝（しや）してやまず　つねにわが祈禱（いのり）のときなんぢらをおもふ　十七　われらが主（しゆ）いゑすキリストの神（かみ）さかえのちゝ智慧（ちゑ）と黙示（もくし）のみたまをなんぢらにたまひなんぢらをして神（かみ）をしらしめ　十八　またなんぢらのこゝろの目（め）をあきらかにしその召（めし）をこうむりてたまふところの望（のぞみ）と聖徒（せいと）にあたふところの業（ゆづり）のさかえの富（とみ）と　十九　また信（しん）ずるなんぢらに對（たい）しておこなひたまふ神（かみ）のちからの極（きはめ）ておほいなることをしらしめたまはんことを願（ねがふ）なんぢらの信（しん）ずるは神（かみ）のおほいなるちからのはたらきによるなり　二十　すなはちキリストにおこなひしところにしてこれが死（し）しひとのうちよりよみがへらせもろ〳〵の政（まつりごと）と権威（けんゐ）と能力（ちから）と宰治（きみ）またこの世（よ）のみならずきたらんとするよにも凡（およそ）となふるところの名（な）のうへにおき天（てん）のところにておのれの右（みぎ）にざせしめしちからなり　二十二　またすべてのものをこれの足下（あしもと）におきまた彼（かれ）をすべてのもののうへに首（かしら）となしこれを教會（けうくわい）にたまひてそのかしらとなせり　二十三　けうくわいはこれの身躰（からだ）なり。よろづのものをみて萬物（よろづのもの）にみちみつるものゝ充満（みてる）ところなり

第二章（だいにしやう）

神（かみ）はとがと罪（つみ）にしにしところのなんぢらをもいかしなへり　二　なんぢらかつてこの世（よ）のならはしにしたがひ

ひらの愆(とが)とつみをおこなひて日(ひ)をおくりまた空中(くうちう)にある諸權(しよけん)をすべつかさどるもの。すなはち信(しん)じなさゞるものゝうちに今(いま)はたらくところの靈(れい)にしたがへり 三 われらもみな嘗(かつ)てそのなかにゐて肉(にく)のよくにしたがひ日(ひ)をおくり肉(にく)とこゝろのおもふまゝをなし他人(ほかのひと)のごとくうまれながらにして怒(いかり)の子(こ)なりき 四 しかるに矜恤(あはれみ)にとめる神(かみ)われらをあいするところのおほいなる愛(あい)により 五 つみに死(し)しときにはわれらをキリストとともにいかし（なんぢら恩(めぐみ)によりてすくはれしなり）六 また耶穌(いゑす)キリストにあるわれらを彼(かれ)とともによみがへらせともに天(てん)のところに坐(ざ)せしめたまへり 七 これ今(いま)より後(のち)の世々(よゝ)キリストいゑすの中(うち)すくわれらにほどこすところの仁慈(なさけ)をもてその恩(めぐみ)のすぐれてゆたかなることをあらはさんためなり 八 なんぢらめぐみによりてすくひを得(え)るはしんかうによりてなり自己(おのれ)によるにあらず神(かみ)のたまものなり 九 行(おこなひ)によるにあらずかくのごとくなるは誇(ほこる)ものなからんためなり 十 われらは神(かみ)のつくりたまへるものなり。すなはち我儕(われら)をして善事(よきわざ)をおこなはしめんためにキリスト耶穌(いゑす)のうちに造(つくり)たまへり。そのわざは神(かみ)われらにおこなはせんとて預(あらかじめ)そなへたまひしところなり○ 十一 この故(ゆゑ)になんぢらこゝろにとゞめよ肉(にく)によ

至て異邦人なるなんぢら手をもてにくにおこなへるこうらまれのものに不割禮ととなへられしものなれば 十二 そのときハ爾曹キリストなくイスラエルの籍にあらざるいそうじんにしてそのやくそくにつきてむすびたまひし契約にあづかりなく望なくまた世にありて神なきものなりき 十三 しかれども今ハキリストハかれにわれらがさきにとほざかりし爾曹ハかれの血によりてちかづけり 十四 これハわれらの和なり。ふたつのものをひとつとなし怨となるへだての籬をこぼち律法のうちにめいぜるところのをきてをそのにくたいにて廢せり。それ二者をおのれにつらねこれを一のあたらしきひとにつくりてやはらがしめ 十六 また十字架をもてうらみをほろぼし。またこれをもてふたつのものを一躰となして神とやはらがしめんためなり 十七 また彼きたりてそふくいんをつたへ爾儕とほざかりしものおよびちかきものにも和平をのべたり 十八 それこれによりてわれらふたつのもの一の靈にありて父にちかづくことをうるなり 十九 これゆゑになんぢらいまより賓旅にあらず寄寓ものにあらで聖徒とおなじ邦なる神のいへにぞくするものなり 二十 またなんぢら使徒とよげんしやの基のうへにたてらる耶蘇キリストみづからそのすみの首石となれり 二一 全屋

みなくみたてゝ彼のうちにありやゝに増きよきみや主のうちに成なり 二二 なんぢらもともにこれのうちに建られたり。これ靈によりて神のすみたまふところとなるべきためなり

第三章

一 このゆゑに爾儕いはうじんのためにキリスト耶穌のめしうどとなれる我パウロ なんぢらのためにいのる 二 なんぢらのために神のわざにたまひし恩ハなんぢらすでにきゝしならん 三 すなはち默示をもておくぎを我にしらせるなり。われ畧まへにしるせるごとし 四 なんぢらこれを讀ばわれによりてわがキリストの奥儀をさとれることをしるべし 五 さきの代にこれをひとにしらしめしにいま靈をもてきよき使徒とよげんしやにしめしゝがごとくならざりき 六 そのおくぎハすなはち異邦人ふくいんによりてキリスト耶穌にありてともに嗣子となり。ともに一躰となりともにやくそくに與ることゝなり 七 われ神のたまものを即そのちからのはたらきをもてわれに賜りしめぐみによりて此ふくいんの役者となれり 八 すべてのせいとのうちに最微ものよりもちひさき我にこのめぐみをたまひて測ることならざるキリストの富をいはうじんにつたへ 九 かつ耶穌キリストをもて萬物をつくりし神のうちに世のは

じめよりあきらかならざる奥義（おくぎ）いかんをあまねくの人々（ひと）にあきらかにしむ 十 これ教會（けうくわい）をもて天（てん）のところにある政（まつりごと）をとれるものと權威（けんゐ）をもてるものに神（かみ）のさまざまのちゑをしらしめんためなり 十一 これ神（かみ）よゝのさきよりさだめたまひし旨（むね）にしたがへるなり。このむねはわれらの主（しゆ）キリストいえすによりて成就（じやうじゆ）せり 十二 われらキリスト耶穌（いえす）にありてこれをしんずるにより臆（おく）せざることを得（え）たるはゞかることなくしく神（かみ）にちかづくことをえたり 十三 このゆゑにわれなんぢらに求（もとむ）わがなんぢらのためにうくる患難（なやみ）により怯（おそ）るゝなかれ。これなんぢらのほまれなり 十四 これによりてわれらの主（しゆ）いえすキリストの父（ちゝ）にむかひ天（てん）と地（ち）にある諸族（しよぞく）のこれよりて名（な）をえしものの父（ちゝ）にひざまづき 十五 ねがはくはそのさかえの富（とみ）にしたがひその靈（みたま）をもてなんぢらの衷（うち）のひとをつよくしたまはん 十六 またキリストをして信仰（しんかう）によりてなんぢらの心（こゝろ）にをらしめ 十七 またなんぢらをして愛（あい）にねざしかたくもとゐとしてすべての聖徒（せいと）とゝもにはかるべからざるキリストのあいをしり 十八 その濶（ひろ）さ長（なが）さ深（ふか）さ高（たか）さをさとらしめまたすべて神（かみ）にみてるものをなんぢらに滿（みた）しめたまはんことなり 二十 ねがはくはわれらのうちにおこなふ能力（ちから）にしたがひてわれらのもとむるところおもふ

ところよりもいたくまされることをなしうるものに二キリスト耶蘇によりてけうくわいのうちにて世々かぎりなくさかえを帰せんことをアーメン

第四章

されば主にありて囚人となれるわれなんぢらに勧むなんぢらめされし召にかなひておこなはんことを二ことごとく謙遜と柔和と寛容なるこころをもておこなひ愛をもてたがひにしのび三平和といふ繋のうちにつとめて霊のたまふところの一なるをまもるべし四からだは一みたまは一なりなんぢらのめされてたもつところの望のひとつなるがごとし五主ひとつ信仰ひとつバプテスマひとつ六神すなはちすべてのひとの父ひとつあり彼はすべてのひとの上にあり。すべての人につらぬき。すべてのひとの中にあり七われらおのおのはキリストのたまふところの量にしたがひて恩をたまふなり八このゆゑにいへることあり。かれ上にのぼりしとき擒になるものをとりこにし賜をひとにたまへりと九已にうへにのぼれりといへばまづ地のしたにくだりしにあらずや十降しものはすなはち諸天のうへにのぼりしものなり彼よろづのものに満んとて十一そのたまひしところは使徒あり預言者あり傳道者あり牧師あり教師あり十二これ聖徒をまつたうし服役のことをおこなひ

キリストのからだに德（とく）をたて　十三　われらをしてみなおなじく神（かみ）の子をしんじこれをしりて全人（まつたきひと）すなはちキリストの滿（みち）足（たれ）るほどとなるまでにいたり　十四　いまよりのち嬰兒（こども）ならで人（ひと）のいつはりの術（てだて）とまどはしの巧（たくみ）にまよはさるることなくさまざまの敎（をしへ）の風（かぜ）にうごかされず　十五　あいをもて眞理（まこと）をおこなひそだちてすべてのことに首（かしら）なるキリストにいたらしめんためなり　十六　彼（かれ）をもとゝし全體（ぜんたい）はくぐきに百節（ひやくぶし）のたすけによりて聯絡（つらな）りかつその肢體（したい）おのおの分量（ぶんりやう）にしたがひてはたらきてそのからだを育（そだ）てみづから愛（あい）によりて德（とく）をたつるなり

○十七　このゆゑに我（われ）これをいひ主（しゆ）にありてなんぢらをいましむ。なんぢらいまよりのち異邦人（いはうじん）のごとくその意（こゝろ）のよこしまなるまゝにおこなふべからず　十八　かれらこゝろ昏（くら）きものなり。また知（しる）ことなきにより頑（かたくな）なるによりて神（かみ）の生（いのち）よりとほざかれり　十九　かれらハ恥（はぢ）をしらずこのみてすべての汚（けがれ）をおこなはんためにおのれを放蕩（はうたう）にわたせり　二十　されどなんぢらハかくのごとくおこなはんためにキリストをまなべるにあらず　二十一　爾儕（なんぢら）かれにきゝかれのをしへをうけ耶穌（いゑす）にある眞理（まこと）をきゝしならん　二十二　なんぢらさきになせる舊人（ふるきひと）はすなはちひとをまどはす慾（よく）のためにやぶらるゝものを脱（ぬぎ）　二十三　またなんぢらのこゝろの靈（れい）をあらたにし　二十四　神（かみ）にか

さとりて眞理のたゞしききよきにつくれる新人をきるべし 二五 かくていつはりをすておの〳〵その隣にまことをいふべし。そはわれらたがひに肢なればなり 二六 いかりて罪をおかすことなかれ。いかりを日のいるまでにいだくことなかれ 二七 あくまに處をえさすることなかれ 二八 ぬすみおせるものはしくぬすみおせることなかれ寧まづしきものにほどこさんためにはげみて手づから善工をなすべし 二九 すべて汚たることばをなんぢらの口よりいだすことなかれ。たゞ時にしたがひて人のとくをうるべきよきことをいひ聽ものをして益あらしむべし 三十 神の聖靈をしてうれへしむることなかれ。なんぢら救をうる日のためにこれの印をうけしものなり 三一 なんぢらすべてにがきを恚憾いかり喧嚷およびそしり並すべてその惡をおのれよりさるべし 三二 たがひに仁慈と憐憫あるべし キリストにありて神なんぢらをゆるしゝごとくなんぢらもたがひに赦すべし

第五章

なんぢらあいせらるゝ子どものごとく神にならふべし 二 また愛をもておこなひキリストのわれらをあいしわれらのためにおのれをそなへものとなし犠牲となして神のまへにかうばしきにほひあらしめんとてさゝげたまひ

しがごとく行べし 三 聖徒（せいと）たるにかなふごとく姦淫（かんいん）および凡（すべて）のけがれたるをまた貪婪（むさぼる）ことをたがひにいふことをするなかれ 四 淫辭（みだりごと）とうきたることと戯謔（たはむれごと）をいふなかれ。これよろしからざるところなり。むしろ謝（しや）することを行べし 五 なんぢらしるべし いんいんするもの汚穢（けがれ）なるものおよびむさぼるもの。すなはち偶像（ぐうざう）をおがむものはキリストと神（かみ）のくにをつぐをえざることはなんぢらしればなり 六 なんぢらひとの虚言（むなしきことば）にあざむかるるをなかれ神（かみ）のいかりこれらのことによりて背逆（そむく）ものにいたるなり 七 このゆゑにかれらにくみするをなかれ 八 なんぢら素（もと）くらかりしがいまは主（しゆ）にありてひかれり光（ひかり）の子（こ）どものごとくおこなふべし 九 それひかりのむすぶところの果（み）はすべてのよきこととたゞしきことと誠實（まこと）のうちにあればなり 十 主（しゆ）のよろこぶところをわきまへてこれを行（おこなふ）べし 十一 なんぢら果（み）をむすばざるくらきわざに與（くみ）することなく反（かへつ）てこれをせむべし 十二 かれらが隠（かくれ）におこなふところのことはこれを言（いふ）だにもはづべきことなり 十三 すべて責（せめ）をうくべき事は光（ひかり）にてあらはるゝなり そはすべてを顯（あらは）すものはひかりなればなり 十四 このゆゑにいへることあり寐（いぬ）るものよめをさまし死（しに）より起（おき）よキリストなんぢをてらさん 十五 されば なんぢらいつもこゝろしておこなひ

そろそろと慎（つゝしむ）べし。さとからざるもののごとくせず智者（かしこきもの）のごとくおこなへし 十六 をりをばうしなふまじ。この時（とき）あしきなればなり 十七 これゆゑに愚（おろか）なるものとなることなく主のむねのいかなるとはかるべし 十八 また酒（さけ）にゑふことなかれ。おぼれをなすを放蕩（はうたう）なれば宜（よろ）しくみたまにみたさるべし 十九 たがひに詩と謳（うた）と靈（れい）によりてつくれる賦をもてかたりあひ またうたひてなんぢらはこころに主を讃美（さんび）すべし 二十 すべてのことにつきて恒（つね）にわれらの主いゑすキリストの名によりて神なる父にしやすべし 二一 キリストをおそるるこころをもて互（たがひ）にしたがふべし○ 二二 婦（つま）なるものは主にしたがふがごとくおのもは夫（をつと）にしたがふべし 二三 それハキリスト教會（けうくわい）のかしらなるごとくをつとはつまの首（かしら）なれバなりキリストも身（み）のすくひぬしなり 二四 されバけうくわいのキリストにしたがふごとく婦もすべてのこと夫（をつと）にしたがふべし 二五 夫（をつと）なるものはキリストの教會（けうくわい）をあいしそれがためにおのれを捨（すて）たまひしごとくなんぢらもつまを愛（あい）すべし 二六 彼（かれ）おのれをすてしハ水（みづ）の洗（あらひ）をもて道（みち）によりてけうくわいをきよめこれを聖（せい）なるものとせんがためなり 二七 また點汚（しみ）なくしわなくきずなくてこのごときたぐひなく聖（せい）にしてきよくなる榮（さかえ）なる教會（けうくわい）をみづから己（おのれ）のまへにたてんためなり 二八 かくは

ごとく夫そのつまをおのれの身となしてあいすべし妻をあいするものはおのれを愛するなり 廿九 おのれの身をにくむものハ曾てあることなし。これを保養ことキリストのけうくわいをまもりやしなふがごとし 三十 われらハかれが身の肢なり。かれが肉よりいでかれが骨よりいでたる 三一 このゆゑに人ハちゝとはゝをはなれてそのつまにそひ二のもの一体となるべし 三二 この奥義ハおほいなるぞ。わがいふところハキリストと教會をさしてなり 三三 なんぢらもおの〳〵その妻をおのれの身となしてあいすべし。つまもその夫をうやまふべし

第六章

子なるものよ。なんぢら主にありて両親にしたがふべし。これたゞしきことなればなり 二 なんぢの父母をうやまふべし約束をふくむる誡ハこれを首とす 三 これなんぢがさいはひを得ます地上にいのちながからんためなり 四 父なるものよなんぢらの子をいからせることなかれ主のいましめと教訓をもてそだつべし 五 僕なるものよキリストにしたがふがごとくおそれをのゝき誠心をもてにくたいのにつける主人にしたがふべし 六 人をよろこばするものゝごとくたゞ眼前のことをつとむるにあらずキリストのしもべのごとくこゝろより神の旨をおこなふべし 七 人につ

つかふるがごとくせずして主につかふるがごとく甘心つかふべし。そはしもべなるものも自主なるものもあれおのおのなすところの善によりて主より報をうけんことをなんぢらしればなり 九 主人なるものもなんぢらも亦かくのごとくかれらにおこなひて厲言をやめよ。そはかれらとなんぢらの主は天にあり。かれはかたよるところなしと爾儕しればなり○十 すゑにいふなほ我きやうだいよ主およびその大なるちからによりて剛健なるべし 十一 なんぢらあくまの奸計をふせがんために神の武具をもてよろふべし 十二 われらハ血肉とたゝかふにあらで政する権威さまの世の幽暗をつかさどるもの天のところにある悪の霊とたゝかふなり 十三 ゆゑに神のぶぐをとるべし。これあしき日にあたりて敵をふせぎすべてを成就して立んためなり 十四 なんぢらたつに誠をおびとしてこしにむすび義をむねあてとして胸にあて 十五 和平なるふくいんのそなへを鞋としてあしにはき 十六 このほかしんかうの盾をとるべし。このたてをもてことごとくあしきものゝ火箭をけすことをえん 十七 すくひの冑および聖霊のつるぎすなはち神のことばをとるべし 十八 つねにいのりとねがひをもて霊によりて求めうむことなくすべての聖徒のためにもつとめてこ

のためをなし祈(いのり)をうまざるべし 十九 またわが口(くち)をひらくとき言(ことば)をたまはりはゞからずして福音(ふくいん)のおくぎを示(しめ)し 二十 まさ我(われ)いふべきところのごとくおそれを放膽(はゞかりなく)していひうるやう我(わが)ためにもいのるべし。われ此(この)ふくいんのために使者(つかひ)となりて鏈(くさり)につながれたり○二一 愛(あい)せるきやうだい主(しゆ)に忠心(ちうしん)にてはたらけるテキコわがいかにしてあるか我(わが)ことをなんぢらに告(つげ)しらせん 二二 われこのことを特(こと)になんぢらにつかはしたるはなんぢらに我(わが)ことをしらせ。また[illegible]をしくなんぢらのこゝろをなぐさめんためなり 二三 ねがはくは兄弟(きやうだい)ちゝなる神(かみ)と主(しゆ)いゑすキリストよりしんかうにそへて平康(へいかう)と愛(あい)をえんことを 二四 願(ねがは)くはわれらの主(しゆ)いゑすキリストをいつはらにしくあいするすべてのものに恩(めぐみ)あらんことを アーメン

新約聖書(しんやくせいしよ)以弗所書(えぺそしよ) 終

使徒（しと）パウロピリッピ人（びと）におくれる書（ふみ）

第一章（だいいつしやう）

キリスト耶穌（いえす）のしもべパウロとテモテピリッピに
をるところのキリスト耶穌（いえす）にあるすべての聖徒（せいと）および監（かん）
督執事（とくしつじ）にふみをおくる　二　ねがはくはなんぢらわれらの父（ちち）
なる神（かみ）および主（しゆ）いえすキリストより恩寵（めぐみ）と平康（やすき）をうけよ○
三　なんぢらはじめの日（ひ）よりいまにいたるまでともに福音（ふくいん）
にあづかるにより　四　我（われ）なんぢらをおもふごとにわが神（かみ）に
謝（しや）す　五　まさつねになんぢらすべてのためにねがふごとに
よろこびて求（ねがふ）　六　なんぢらのこころのうちに善工（よきわざ）をはじめ
しものこれを主（しゆ）いえすキリストの日（ひ）までに全（まつた）くすべしとまれ

ふかく信ずれば 七 かくのごとくわがおもふは宜なるぞ。なんぢらつねに我こゝろにあるによる。そは我なはめにあるときおよびふくいんを辯明しこれを堅固するときもなんぢらは皆われとゝもにわがうくる恩にあづかればなり 八 われキリスト耶穌のこゝろをもてなんぢらすべてをおもひしたふことはつれくはその證をなすものは神なり 九 またなんぢらのあいの知識ともろくの智慧のうちにますます大になりて最もすぐれたるところをわきまへしり 十一 耶穌キリストによれる義の果をみたさせて神の榮光とほまれをあらはしキリストの日のためにきよくしてあやまちなからんことを祈 十二 きやうだいよ願はなんぢらわが身にありしところの事のかへりて福音のすゝみゆくたすけとなりしをしれ 十三 かくてわが縲絏にかゝりしはキリストのためなることすでに王をまもれるところの陣營および他のひとゞにもあきらかにしられたり 十四 我なはめによりて兄弟たちおほくは主をしんずるの心をかたくし益いさみておそるゝことなく道をつたふ 十五 または猜恨をあらそひによりてキリストを宣をのあり。または善こゝろざしによりてこれをなすものあり 十六 彼はわがなはめのくるしみを増加んことをおもひ誠のこゝろなく黨をむすばん心よりキリストをのぶ 十七 此はわがふく

いんを辯明するために立られしことをしり愛心よりキリストをのぶ 十八 然バいかん。いづれにもあれあるひハ偽あるひハ誠ともにのぶるところハキリストなれバ我これをよろこぶ且つねによろこばん 十九 そハこの事のなんぢらが祈禱と耶穌キリストの靈のたすけによりてつひにわが救となるべきをしれバなり 二十 これわが切にねがふところ望むところなるハ我すべてのことに愧ことなく今もつねのごとく膽せバいけるにもしぬるにもキリストをしてわが身によりてあがめられしめんとおもふにこのなるを 二十一 わが生ハキリストのためにてしぬるもわが益なり 二十二 されど肉身にありていきること若わがはたらきの果をむすぶこともあるべくハいづれをえらぶべきか我これをしらず 二十三 われこの二のあひだにはさまれたり我ねがひハ世をさりてキリストと共にをらんことなり。これ最よきことなり 二十四 されど我にくさばにとゞまるハ爾儕のためさらに必要なり 二十五 われかくこれのことを信ずるがゆゑに存てなんぢらすべてのものとともに世にとゞまりなんぢらが信仰をますゝしめんためよりいづる喜をえせしむるにいたらんことを知る 二十六 われ再なんぢらとともにをらバなんぢらのよろこび我によりて耶穌キリストのうちにますます大ならん 二十七 われたゞなんぢ

らにキリストの福音（ふくいん）にかなふ行（おこなひ）をせんことをすゝむ。これわれが往（ゆき）てなんぢらをみるときも離（はなれ）てなんぢらのことをきくときもなんぢらが靈（れい）をひとつにしてかたく立（たち）ふくいんの道（みち）のためにこゝろをおなじうして力（ちから）をあはせ 二八 すべてのことにつき敵（てき）におどろかされざらんことをしらんためなり。すべて敵（てき）におどろかざるハてきにハほろびの徴（しるし）なんぢらにハ救（すくひ）のしるしなり。これも神（かみ）よりきたるなり 二九 それなんぢらに賜（たまは）るところのめぐみハキリストのためにたゞこれを信（しん）ずることのみならず亦（また）これがために苦（くるしみ）をうくることをもたまひけれバなり 三十 今（いま）なんぢらになやみあり即（すなはち）さきになんぢらがきくところのわれにあるなやみとおなじ

第二章

もしキリストにあるすゝめと愛（あい）によるなぐさめと靈（みたま）のまじはりと慈悲（じひ）とあはれみとあらバ 二 なんぢら念（おもひ）をおなじうし愛心（あいしん）をおなじうし意（こゝろ）をあはせておもふことをひとつにしわが喜（よろこび）をみたしめよ 三 なにごとをおこなふにも黨（たう）をむすびあらそひハ虚榮（きよえい）をもとむるこゝろをいだくべからず各（おの/\）へりくだる心（こゝろ）をもてたがひに人（ひと）をおのれにまされりとせよ 四 まづおの/\おのが事（こと）のみをかへりみず人（ひと）のことをもかへりみよ 五 なんぢらキリスト耶穌（いゑす）のこゝろをもて意（こゝろ）とすべし 六 これハ神（かみ）のかたちにてありしかども

みづからその神とひとしくあるところのことをすてがたきことゝおもはず　七　反ておのれをむなしうし僕のかたちをとりて人のごとくなれり　八　既にひとのごとき状にてあらはれ己をひくうし死にいたるまで順服じふじかの死をさへうくるにいたれり　九　このゆゑに神ははなはだしく彼をあがめてもろ〳〵の名にまさる名をこれにあたへたまへり　十　こハ天にあるもの地にあるものおよび地のしたにあるものをしてこと〴〵く耶蘇の名によりて膝をかゞめしめ　十一　且もろ〳〵の舌をしてこと〴〵く耶蘇キリストハ主なりといひあらはして父なる神にほまれを歸せしめんためなり

十二　されバ我あいするところのものよ爾儕つねにしたがふるごとくおそれをのゝきて己がすくひを全せよ。わがともにをりしときのみならず我をらざるいまハことにしかるべきなり　十三　そハかみその善旨をおこなはんとてなんぢらの衷にはたらきなんぢらをして志をたて事をおこなはしむれバなり　十四　すべてのこと怨言ことなくまたあらそふことなくして行べし　十五　これなんぢらがかけなくまじりなく神の子となりてゆがめる邪なる時代にありてせむべきところなからんためなり　十六　なんぢらハこの時代にありて光のごとく世にあらはれいのちの道をさしもてよ。かくて

キリストの日のためにわれをして我おこなひしところ勞苦しところのむなしくならざるをよろこばしめよ 十七 なんぢらが信仰をそなへものとしてさゝげんなんたとひわが血をながして灌とも われこれをよろこばん爾儕すべてのものとゝもによろこばん 十八 なんぢらもこれがために歡喜われとゝもによろこべ 十九 われなんぢらがありさまをしり心をなぐさめんがため速にテモテをなんぢらにつかはさんことを主いえすによりてのぞむ 二十 そハこれのほかに我とおなじこゝろをもてなんぢらのことをしんじつに慮ものなければなり 二一 おほくの人はみなおのがことのみをもとめて耶穌キリストのことをもとめず 二二 されどテモテの鍛錬あることハなんぢらのしるところなり。これハ子のちゝにおけるごとくわれとゝもに福音のためにつかへたり 二三 このゆゑに我おのれがことのつひにゆくうじなるをしらバたゞちに彼をつかはさんとのぞむ 二四 亦われもみづからすみやかにゆかんことを主によりてかたく信ず 二五 しかれども我のならび先なんぢらがつかひにてわが乏をおぎなひわれとゝもにはたらきわれとゝもに戰をなせるわが兄弟エパフロデトをなんぢらにつかはさゞるべからずとおもへり 二六 そは彼おのがさきに病することのなんぢらにきこ

えしをもていたくなんぢらすべてのものを戀したひかつ氣ぬけしたればなり 二七 實にかれは病にかゝりてほとんど死にちかゝりき。されど神これをあはれみたまへり。惟かれをあはれむのみならずわれをもあはれみ我をしてわが憂にうれひをかさねざらしむ 二八 このゆゑにわれいそくすみやかに彼をつかはさん。これなんぢらをして再かれをみて喜しめ且わがうれひを減さんがためなり 二九 さればなんぢら主にありてよろこびてかれを迎へかくのごとき人をたふとぶべし 三〇 そはかれは己がいのちをかへりみず死んとはるばかりキリストのためにはたらき爾儕がわれをたすくるところの缺をおぎなひたればなり

第三章

終にわれこれをいはん。わが兄弟よなんぢら主にてよろこべ 我これらのことをなんぢらにかきおくるはわれに煩勞なくなんぢらに益あり 二 なんぢら犬をつゝしめ惡をおこなふものをつゝしめ割をおこなふものを愼 三 そは神にみたまにてつかへほこりとなしキリスト耶穌によりてほこり肉躰にたのまざるわれらは眞のかつれいをうけたるものなればなり 四 然どわれまたにくたいに恃ことをうるなり。もし人にくたいにたのむことを得とおもはゞわれはさらにたのむことをうるなり 五 われは第八日にかつれいをう

うけたる者にしてイスラヱルの族ベニヤミンの支派ヘブル人よりうまれたるヘブルびとなり律法によればパリサイのひと 六 熱心によれば教會をせむるものなりおきてにあるところの義によればとがなきものなり 七 されどわれ前にわがえきとありしところのをへキリストによりて損なりとおもへり 八 然のみならば我わが主キリストいゑすを識ことをもて最まされることなるがゆゑにすべてのものをそんとなす。われ彼がためにはこれらはすべてのものが損せしかどこれを糞土のごとくおもへり 九 われキリストが獲ん しんかうにもとづきて神よりいづる義をもてるはちおきてによれるおのが義にあらずばキリストを信ずるによるところの義をもちてキリストのうちにをり 十 また彼とそのよみがへりの能力をしりまたその死のありさまにしたがひてかれの苦にあづかり 十一 いかにもかくにも死たるものゝ復生にいたることをえんがためなり 十二 われこれらの望をすでにえたりといふにはあらず。またすでに全せられたりといふにあらず。たるひいとることあらんとてわれさへこれが追もとむ キリストこれがえさせんと我をとらへたまへるなり 十三 兄弟よわれみづからこれをとらへたりとおもはず。たゞこの一事をつとむ即うしろにあるものをわすれ前にあるものを

ぞみ十四神キリスト耶蘇によりて上へ召して給ふところの褒美をえんと標準にむかひてすゝむなり十五このゆゑにわれらのうちおよそ全きもののごとき意をもつべしなんぢら若なにごとにてもちがふことあるおもひを懐かばこれをも神なんぢらに示したまはん十六されどわれら已にいたれるところにありておなじ法にしたがひておこなふべし十七きやうだいよなんぢらみな我にならふものとなれ且なんぢらの模楷となるわれらにしたがひておこなふをなれもまた視よ十八そはわれしばしばなんぢらに告いまも涕て泣をなしてなんぢらにつぐるごとくキリストのじふじかに敵しておこなふもの多ければなり十九かれらのをはりは滅亡なりおのが腹をその神となしおのが羞辱をそのほまれとなしもつぱら世のことをおもふ二十われらはそれにも天にあり。われらは救主すなはち耶蘇キリストのそこよりきたりたまふを待つ二十一これは萬物をおのがもとにしたがはせうる能にしたがひわれらがいやしきこのからだを化してその榮光の體にかたどらしむべし

第四章

一このゆゑに我がいとしみしたふところの兄弟われのよろこびまたわれの冕なるわが愛するものよ今わがすゝむるところにしたがひてなんぢらかたく主にたつべし

二 われユウオデヤにすゝめスントケに勸（すゝむ）これらが主（しゆ）にありて心（こゝろ）をおなじうせんことを 三 わが眞（まこと）のともよも請（こふ）なんぢらこのふたりの婦（をんな）たちをたすけよ彼儕（かれら）クレメンスおよびほかのわがはたらきの侶（とも）なるひと〴〵とちからを協われらとゝもにつとめて福音（ふくいん）をひろめたり。これらの名（な）はいのちの書（ふみ）にしるされたるなり 四 なんぢらつねに主（しゆ）にありてよろこべ。われ復（また）いふなんぢら喜（よろこぶ）べし 五 なんぢらすべて人（ひと）をしてそれ寛容（くわんよう）なることをしらしめよ主（しゆ）はちかし 六 なにごとをもおもひわづらふなかれたゞこと〴〵に祈禱（いのり）をし懇求（ねがひ）をしかつ感謝（かんしや）しておのがもとむるところを神（かみ）につげよ

七 神（かみ）よりいでゝ人（ひと）のはかりおもふところにすぐる平安（やすき）はなんぢらの心（こゝろ）と意（おもひ）をキリスト耶蘇（いゑす）によりてまもらん 八 兄弟（きやうだい）よそのほかわれこれをいはん。およそ眞實（まこと）なることおよそ敬（うやまふ）べきことおよそ公義（たゞしきこと）およそいさぎよきことおよそ愛（あい）すべきこと凡（およそ）よききこえあることすべていかなる德（とく）いかなるほまれもなんぢらこれを念（おもふ）べし 九 なんぢらわれより學（まなび）しところ受（うけ）しところ聞（きゝ）しところ見（み）しところをみなおこなへさらば平康（やすき）をたまふ神（かみ）なんぢらとゝもならん 十 これなんぢらが我（われ）をおもふこゝろの今（いま）またやうやく萌（きざし）せしを主（しゆ）によりてはなはだよろこべり。なんぢらは素（もと）より

われをおもひゐたれども機(をり)を得(え)ざりしなり 十一 われ乏(とぼしき)によりてこれをいふにあらず。それ我(われ)いづれのあるさまにをるもそれをもて足(たれ)りとすることをまなびえたり 十二 われいやしきにをるの道(みち)をしりまた富(とみ)にをるのみちをしる飽(あく)ことも飢(うう)ることもとむこともともしきことをも諳(な)れことゝくにおいてわれこれを熟煉(じゆくれん)せり 十三 われへまゝに力(ちから)をあたへつるキリストによりてすべてのことをなしうるなり 十四 されどもわが艱難(かんなん)にありてわがたすけをなせしハまことに善 十五 ピリッピびとよなんぢらもまた知(しる)わがふくいんをつたふるはじめマケドニヤをはなれざるとき授受(さづけうけ)をなして我(われ)をたすけしもの

ハたゞなんぢらのみにして他(ほか)の教會(けうくわい)ハこれにあづからざりき 夫(それ)なんぢらハわがテサロニケにありしとき一度(ひとたび)ならず二(に)度(ど)までもひとをつかハしてわが乏(とぼしき)をたすけたり 十七 われ饋贈(おくりもの)をもとむるにあらずたゞなんぢらが益(えき)となる果(み)のしげからんことをもとむるなり 十八 我(われ)すべてのものをうけてあまりあり。われすでにエパフロデトの手(て)よりうけたるかうばしきにほひにして神(かみ)のうけたまふところ悦(よろこ)ばせたまふところの祭物(そなへもの)なるなんぢらのおくりものをうけてたれり 十九 それわが神(かみ)ハおのれが富(とみ)にしたがひてキリスト耶穌(いえす)にありて榮光(えいくわう)をもてなんぢらがともしきところを補(おぎな)ひたまはん 二十 ねがはくハわれ

らがちゝなるかみに世々さかえあらんことをアーメン　二一
なんぢらキリストにある聖徒(せいと)おのおのにやすきを問(とへ)われと
ともにある兄弟(きやうだい)たちなんぢらにやすきをとふ　二二　諸(もろ〳〵)のせ
いとたちなんぢらに安(やすき)をとふカイザルの眷属(けんぞく)のものわき
てなんぢらにやすきをとふ　二三　ねがはくはわれらの主(しゆ)い
えすキリストの恩(めぐみ)なんぢらすべてのものとともにあらん
ことをアーメン

新約聖書腓立比書(しんやくせいしよぴりぴしよ)　終

米國聖書會社藏板
PRINTED FOR THE AMERICAN BIBLE SOCIETY

95-91188
0237
AUG 7 1948

鈴木
桝屋